



日本私立歯科大学協会広報

第84号
令和4年9月

目次

〈巻頭言〉

- 来たれリケジョ!!—女性医療人への期待—
水田祥代 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部	
・マヒドン大学（タイ）の学生が 本学歯学部短期オンライン研修に参加しました	4
・シティデンタルカレッジ（バングラデシュ）の 創立25周年記念式典に参加しました	4
・白井一幸氏が客員教授に就任	4
○岩手医科大学歯学部	
・最終講義が行われました	4
・卒業式が挙行されました	4
・岩手医科大学入学式が挙行されました	5
・感染症対策センター竣工	5
○奥羽大学歯学部	
・東北地区歯科医学会からの表彰	6
・歯科医師臨床研修指導歯科医講習会	7
・大学院特別研修セミナーの開催	7
・登院式	7
○明海大学歯学部	
・保健医療学部登院式 医療の道へ自覚新たに	7
・ホワイトコートセレモニー開催 歯科医師への 決意新たに	8
・パラオ共和国での日本人戦没者遺骨収集事業に 坂教授らが従事	8
○東京歯科大学	
・令和3年度日露医療協力推進事業 第1回テレカンファレンス開催	9
・第12代学長に一戸達也教授が就任	9
・理事長・学長就任式開催	10
○昭和大学歯学部	
・濵谷勲兼任講師と高見正道教授が学会賞を受賞	10
・歯科補綴学講座の研究チームが特許を取得	10
・四宮寛大さん（歯学部5年）が Joseph Lister Award を受賞	11
・歯学部卒業生の塚崎雅之さんが 文部科学大臣表彰を受賞	11
○日本大学歯学部	
・日本大学歯学部創設100周年記念事業 日本大学歯学部本館竣工	12
○日本大学松戸歯学部	
・故・泉廣次先生に正五位	13
・令和4年度松戸歯学部開講式を挙行	13
○日本歯科大学生命歯学部	
・日本歯科大学新潟生命歯学部 ・本学創立116周年式典	13
○日本歯科大学生命歯学部	
・山中京大教授 中原本学教授 競演	14
・桑田正博先生 約300点の寄贈	15
・米山武義名誉博士 日本歯科医学会会長賞受く	15
・村上先生殿堂入り 「2022年KYOTO 地球環境の殿堂」	15
○日本歯科大学新潟生命歯学部	
・中谷助教優秀賞受賞	15
○神奈川歯科大学	
・「令和3年度神奈川県警察協力歯科医研修会」 開催される	15
・病院だより	16
・クリニックだより	16
・大学院だより	16

○鶴見大学歯学部

- ・歯学分子生化学講座・斎藤まり助教の
研究論文が Materials Science and
Engineering C(IF = 7.328)に掲載されました ... 17
・江口貴紀助教 公益財団法人 大下財團
2022年度大下財團研究助成決定 ... 17
・臨床研修歯科医修了証授与式・辞令伝達式 ... 17

○松本歯科大学

- ・河北医科大学と相互臨床実習
オンラインで学生が交流 ... 18
・第8回「カムカムメニュー写真コンテスト」
表彰式 最優秀賞は「美容と健康に♡
オートミール de カムカムバー」 ... 18
・矢島安朝病院長が日本歯科医学会会長賞
「教育部門」を受賞 ... 18
・第2学年有志が新入生サポート隊を結成
入寮時に引っ越し荷物の搬入等を手伝う ... 19

○朝日大学歯学部

- ・学修環境を充実 ... 19
・「医歯薬出版株式会社賞」を受賞 !! ... 20
・「日本唾液腺学会奨励賞」を受賞 !! ... 20
・海外の大学とオンラインで国際交流 ... 20
・生涯研修を積極的に支援 ... 21

○愛知学院大学歯学部

- ・令和3年度 第56回歯学部学位記授与式を挙行 ... 21
・愛知医科大学との包括連携協定を締結 ... 21
・動物慰霊祭を挙行 ... 21
・歯学部・薬学部の1年生合同IPE実施 ... 22

○大阪歯科大学

- ・高齢者歯科学講座 学術大会賞を3年連続受賞
..... 22
・第31回歯科衛生士国家試験、
令和3年度歯科技工士国家試験
2年連続で合格率100%を達成 ... 23
・日本歯科医師会雑誌2月号「内の日・外の日」
に高橋教授、柏木教授のSDGs推進に関する
記事が掲載されました ... 23

○福岡歯科大学

- ・口腔医学研究センターシンポジウムを開催 ... 24
・福岡歯科大学口腔医療センター
10周年記念報告会を開催 ... 24
・福岡歯科大学医科歯科総合病院に
呼吸器内科を開設 ... 24
・福岡歯科大学学生研究支援プログラム
リサーチ・ステューデントが決定 ... 25

○事業概要

- 令和3年度協会決算 ... 26
○令和4年度協会事業計画 ... 26
○令和4年度協会収支予算 ... 28
○総会 ... 29
○理事会 ... 32
○部会・委員会 ... 36
○事務局長会議 ... 36

○日本私立歯科大学協会関係の諸会議

- 第29回日本私立歯科大学・歯学部附属病院
歯科衛生士協議会 ... 37
○叙勳 ... 38
○付報 ... 38
○人事異動消息 ... 38
○協会役員・部会・委員会名簿 ... 51
○賛助会員企業紹介 ... 55
○一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿 ... 56
○編集後記 ... 56

巻頭言

来たれリケジョ!! —女性医療人への期待—



福岡学園理事長

水田 祥代

国政を始め、社会全体として女性医療人の離職を防ぐための環境整備への関心が高まっている。しかし、依然として女性医療人の働く環境は厳しく、このような支援のエンドポイントはどこかということや、その様々なプロセスには支援する側の想いに「ずれ」があることも事実であり、両立支援は迷走している面も多い。そのような状況の中でも歯科は女性にとっても打って付けの診療科だと感じている。急患や当直はあまりなく、妊娠、出産、子育てといったライフイベントを見据えたキャリアプランを設計しやすい仕事ではないかと思う。

日本では女性の働き盛りと言われる時期が結婚・出産期にあたり、労働率が低下する状況を苦慮されてきたが、果たしてそうだろうか。私の周りには、出産や育児を経験する中で、勤務場所や形態を変えながらキャリアを積んだ例がいくつもある。「両立」とよく言うが、その時、自分が重視することを優先すれば良い。「両立の束縛」から自由になった方がいいと思う。「休んだら遅れをとる」なら、また追いかければいいんじゃないかな。子育てをしながらでも勉強はできるし、歯科医師は生涯を通してで

きる仕事である。

また、女性は男性に比べて決断力が劣るため、チームのリーダーとしては適していないという意見もあるが、これは個人の能力・資質の問題だと思う。ただし、女性の中にも「私は女だから」という、アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）がありそうだという点は大きな課題である。

キャリアを積むも積まないも、自身で選んだ道に不正解はない。ただ、中には、周りのせいにして、働き続けるための方法を考えることさえしないままの人もいるような気がする。

上司や男性同僚たちは、女性の部下や同僚に対して常にフェアであってほしい。チャンスもフェアに与え、評価もフェアにしてほしいと願う。一方女性は本当に望むことであれば、育児や就業支援などの制度設定のみをエンドポイントとして満足することなく、意思決定の場への参加を目指すことを躊躇しないでほしい。確かにそういう立場につくと仕事量も増え、責任も増えるが、一方では自分の世界が広がり、視野も広がり、能力もさらにアップし、人生が豊かになる。その素晴らしい醍醐味を十分味わって

ほしい。

ある時期、私共の学園で優秀な女性スタッフの辞職が続いた。聞けば妊娠したけれど子どもを預けられるところがないと言う。ならばと本学園敷地内に保育園を開設したところ、「出産後また仕事に復帰できる」と非常に喜ばれた。また、本学園では、産休、育休明けの勤務は、所属部署と相談の上、時短勤務を選択することも可能で、優秀な人材に長く活躍してもらうために、今後もスタッフの声には真摯に耳を傾けていきたいと思っている。

さらにわが国では、歯科医師が過剰であるとの意見もあるが、私はそうは思わない。本学園が提唱する口腔の健康から全身の健康を守るという「口腔医学」の理念を実現するために、知識や技術の修得に邁進することが歯科医師のみならず、医科領域の医師達にも求められており、医科歯科連携の重要性は益々強くなっていると感じている。また、周術期や抗がん剤投与中の口腔ケアは、歯科医師を中心となって多職種で行っており、福岡歯科大学医科歯科総合病院では院内のみならず訪問歯科チームが提携病院にも赴いて実施している。「国民皆歯科健診」で健やかな人生100年時代を迎えるべく今後は、在宅療養中の方や寝たきりの方など、歯科医院に行くことができない方々のもとへ訪問診療を進めることが重要であると考えている。ライフステージのさまざまな場面で、口腔ケアは健康やQOL向上に貢献しており、こうした新しい領域の歯科医療の役割の広がりを鑑みれば、今後歯科医師はむしろ不足するのではないかと懸念され、女性医療人への期待が大きくなってくる。

そこで女性医療人を活躍させるためには、周囲が区別をせず、チャンスも評価もフェアに与えること、そして女性医療人たちはその職に誇りを持ち、自らの意思で人生を切りひらいていくことが大切だと思う。

本学では、2000年以降、女子学生の割合は約4割を占めるようになり、大学院生に関して

も女子学生の割合は増えてきている。このような状況を踏まえ、私は「来たれリケジョ!!」と女性医療人を目指す人たちにエールを送りたい。

〈筆者の略歴〉

1966年	九州大学医学部卒業
1968年	英国リバプール大学附属アルダー・ヘイ小児病院留学
1979年	九州大学医学部附属病院小児外科講師
1983年	福岡市立こども病院・感染症センター小児外科部長
1986年	九州大学医学部小児外科学講座助教授
1989年	九州大学医学部小児外科学講座教授
2004年	九州大学病院病院長
2008年	国立大学法人九州大学理事・副学長
2010年	学校法人福岡学園（旧福岡歯科学園）理事・評議員
2011年	学校法人福岡学園常務理事
2015年	学校法人福岡学園理事長

大学のニュース

■ 北海道医療大学歯学部 ■

マヒドン大学(タイ)の学生が 本学歯学部短期オンライン研修に 参加しました

2022年3月14日～3月18日に本学歯学部主催の「短期留学生交流プログラム」がタイのマヒドン大学歯学部の学生へ向け、オンラインで実施されました。マヒドン大学の参加者は6年生13名で、本学歯学部教員から、通常の交流と同様に英語により、歯学に関する様々なトピックが提供されました。

プログラム初日は、古市歯学部長に開会挨拶をいただき、安彦国際交流推進センター長が日本の歯学事情に関する特別講演・本学の紹介を行いました。ライブ配信での大学キャンパス・歯科設備の紹介や、17名の歯学部教員の講義、本学の学部生とのオンライン交流、最終日のマヒドン大学参加学生によるプレゼンテーション発表等、充実したプログラムとなりました。

また、全てのプログラムで、国際交流推進センターのハサン助教が司会進行を行い、参加学生をサポートしました。

コロナ禍において、短期留学や国際交流の機会が減少している中、今回のオンラインプログラムは、両大学にとって、とても良い機会となりました。

北海道医療大学ホームページ（令和4年3月掲載）

シティデンタルカレッジ(バングラデシュ) の創立25周年記念式典に参加しました

去る5月11日～13日に本学歯学部の提携校であるバングラデシュのシティデンタルカレッジ(CDC)にて、創立25周年記念式典が開かれ、本学を代表し、CDCの卒業生でもある国際交流推進センターのハサン・MD・リアサト助教が式典に参加しました。

式典では、CDCのバドウルドゥドゥザ理事長より、浅香学長の名前と写真入りの記念品が贈られ、後日、ハサン助教から浅香学長へ記念品が手渡されました。

北海道医療大学ホームページ（令和4年6月掲載）

白井一幸氏が客員教授に就任

企業研修講師でプロ野球解説者（2023年WBC侍ジャパンヘッドコーチ、元北海道日本ハムファイターズ1軍

内野手走星コーチ兼任戦担当）の白井一幸氏が、令和4年8月1日付で北海道医療大学客員教授に就任いたしました。

本学は薬剤師・歯科医師・看護師などの医療人を養成する、6学部9学科を擁する北海道最大の医療系総合大学です。「知育・德育・体育の三位一体の教育」を建学の理念として1974年に設立され、ほぼ半世紀にわたり、若くて行動力にあふれた医療人を世に送り出してまいりました。今、医療の現場や大学を取り巻く環境は大きく変化しています。大学もまた社会の変化に呼応し、対応していくかなくてはなりません。白井氏のこれまで培われた多様なご経験や知識を、ぜひ、本学の学生支援、教職員の資質向上や人材育成などに活かしていただきたいと考えています。今後は全学部学生の講義、教職員向け研修会講師等に携わっていただく予定です。

北海道医療大学ホームページ（令和4年7月掲載）

■ 岩手医科大学歯学部 ■

最終講義が行われました

3月7日(月)、大堀記念講堂において、3月31日付をもって定年退職される教授の最終講義が行われました。

聴講者は、各教授によるスライドや在職中のエピソードなどを交えた熱心な講義に耳を傾け、名残を惜しみました。講義終了後には、職員や学生から各教授に花束が贈呈され、惜しみない拍手が送られました。



左から：坂田教授、滝川教授、佐藤教授、志賀教授、
井上教授、佐々木教授

岩手医科大学報 vol.540 (令和4年3月発行)

卒業式が挙行されました

令和3年度岩手医科大学卒業式は、3月11日(金)に大堀記念講堂において挙行されました。新型コロナウイルス感染防止のため、出席者を限定し、卒業生は各研究科・学部の代表者、教員は教授のみとしました。参加が

叶わなかった卒業生と保護者のため、ライブ配信されました。

令和3年度岩手医科大学医療専門学校の卒業式は、3月8日(火)に上ノ橋校舎で挙行されました。祝辞等は書面により配布され、保護者の出席をご遠慮いただく等、最小限の人数で執り行われました。

昨年度に続き、今年度も規模縮小の開催となりましたが、卒業生は母校の思い出と新天地への期待を胸に、医療人として決意を新たにしたようでした。



岩手医科大学卒業生代表宣誓



岩手医科大学医療専門学校卒業生と関係教員・職員

岩手医科大学報 vol.540 (令和4年3月発行)

岩手医科大学入学式が挙行されました

4月12日(火)、岩手県民会館大ホールにおいて、令和4年度岩手医科大学入学式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症対策として、入学生及び教員のみの参加とし、参加が叶わなかった保護者に向けて、ライブ配信が行われました。

式は、国歌斉唱（感染対策のため演奏のみ）に始まり、各研究科・編入学生・学部の新入生312名に対する祖父江学長からの入学許可宣言がありました。研究科を代表して中西厚雄さん（歯学研究科）、学部を代表して小林留生さん（看護学部）から宣誓があり、その後、祖父江学長からの式辞及び小川理事長からの祝辞に続き、在学生を代表して学友会総務局委員長北御門健さん（医学部4年）から在学生歓迎の辞が述べられ、最後に校歌

斉唱（演奏のみ）を行い、閉式となりました。

昨年度に続き、今年度も規模縮小の開催となりましたが、入学生は新たな門出の一歩を踏み出し、期待に胸を膨らませているようでした。



岩手県民会館大ホールで挙行した入学式



学部代表者による入学生宣誓

岩手医科大学報 vol.541 (令和4年5月発行)

感染症対策センター竣工



令和3年11月に着工した感染症対策センター新築工事は、令和4年3月に完成を迎えました。

この施設は、新型コロナウイルス感染症重症患者受け入れ専用施設として附属病院敷地内に整備されました。本学附属病院では従来、コロナ重症患者をICU内の陰圧個室2室を中心に受け入れを行っていましたが、当該個室以外の病室は開放的に創られていることから、2名以上のコロナ重症患者を収容すると、ICU全体が使用できなくなり、がん、脳卒中、心臓病その他のコロナ以外の高度医療を要する手術がストップし、高度医療の提供に支障が出ていました。そのため、附属病院とは別棟に本施設を整備することで、附属病院が担う高度医療の提供とコロナ重症患者治療の両立を図りました。

本施設は、コロナ重症患者の集中治療を念頭に、陰圧管理される病床6床に、人工呼吸器やECMO（人工心肺装置）といった生命維持管理装置を整備した他、CT撮影装置を設置することにより、的確な診断の下、コロナ重症患者への迅速かつ万全な治療を提供することを可能としています。また、新型コロナウイルス感染症が終息した後も、新興感染症対応の他、広範な感染症対策に資する施設として継続的に活用することとしています。

■概要

工事概要	期間	令和3年11月15日～令和4年3月31日
	構造	軽量鉄骨造地上1階
	面積	579.96m ²
建物概要	病床	6床（全室陰圧管理） ・人工呼吸器 ・ECMO（人工心肺装置）
	機能	CT撮影室（16列CT撮影装置）、診療室2室、衛生処理室、感染性廃棄物室、スタッフステーション



落成セレモニー・テープカット
左から：祖父江学長、小原紀彰岩手県医師会長、
八重樋幸治岩手県副知事（岩手県知事代理）、
小川理事長、小笠原附属病院長



病室



CT撮影室



予行演習：全体ミーティング



予行演習：患者搬送

岩手医科大学報 vol.541 (令和4年5月発行)

■奥羽大学歯学部■

東北地区歯科医学会からの表彰

第74回東北地区歯科医学会は昨年11月14日(日)、岩手県歯科医師会が当番で各県の会場にWeb配信にて開催された。本会の表彰基準として、5年以上にわたり通算5回発表した会員への表彰があり、歯科矯正学分野が74回大会で5年間毎年1～2演題発表したことで本基準をクリアした。当日は福島県歯科医師会館で表彰式が挙行され、福島県歯科医師会中村文彦学術理事から表彰状が手渡された。

(成長発育歯学講座歯科矯正学分野 福井和徳)



(左)福井和徳教授

奥羽大学報 170号 (No.295) (令和4年3月発行)

歯科医師臨床研修指導歯科医講習会

第15回歯科医師臨床研修指導歯科医制度講習会が病院棟5階臨床講義室を主会場に、昨年12月4日(土)、5日(日)の両日、16時間にわたって開催された。昨年度はコロナ禍にあって実施出来なかつたが、今回は学内の参加のみとし、本学歯学部教員16名が参加した。スーパーバイザーの日本歯科大学附属病院の横澤茂准教授とチーフタスクフォースの本学清野晃孝准教授が主導した。特別講師としては、厚生労働省医政局歯科保健課木村主査がビデオで参加した。次年度からの臨床研修制度の改定を前提に臨床研修の問題点と対応策を練った。臨床研修のカリキュラムプランニングを作成、発表するなど、有意義な講習会であった。



奥羽大学報 170号 (No.295) (令和4年3月発行)

大学院特別研修セミナーの開催

2022年度第1回、第2回大学院特別研修セミナーが、それぞれ5月20日(金)、27日(金)と開催されました。第1回の大学院特別研修セミナーでは、京都大学情報環境機構IT企画室 学術情報メディアセンター・メディア情報分野助教の小野英理先生にご講演頂きました。視覚的な観点からの研究内容は、科研費の採択率を上げるための方策となり、視覚的な要素を勉強する良い機会と

なりました。また、第2回目の大学院特別研修セミナーでは、順天堂大学大学院医学研究科の循環器内科教授の南野徹先生にご講演頂きました。南野先生は、血管老化の研究を通して、国際的な研究業績を積み上げてきた経緯を紹介されました。老化を防止するという新しい観点から、研究の道を切り開かれたところには、大いに興味を惹かれた次第でした。

(川合 宏仁)

奥羽大学報 171号 (No.296) (令和4年6月発行)

登院式

4月7日(木)13時15分から病院棟5階臨床講義室で歯学部第5学年臨床実習生74名の登院式が行われた。大野敬附属病院長から、模型実習とは異なり、患者さんに対応する実習であることや、これまでの学習で不足している知識を充足することの重要性について訓示があった。第5学年学生委員長の根本将広さんが代表として、附属病院のルールに則って臨床実習を行うことを宣言した。今後、各診療科でローテーション方式の実習が行われる。



登院式に74名が臨んだ

奥羽大学報 171号 (No.296) (令和4年6月発行)

明海大学歯学部

保健医療学部登院式 医療の道へ自覚新たに

3月31日、保健医療学部口腔保健学科2年次を対象に2022年度登院式が行われた。登院式とは、客観的臨床能力試験(OSCE)を修了した学生が3年次から臨床臨地実習に臨むにあたり医療の道へ進む自覚を新たにする式典で、保健医療学部口腔保健学科では開設以来2回目の実施となる。初めに、登院許可された学生の名前が呼び上げられると、代表して小林友里奈さんに藤内祝学部長からOSCE修了証が授与された。続いて、小野瀬結衣さんから「私たち口腔保健学科2期生は、歯科衛生

士となるため、臨床実習に臨む行動指針として、歯科衛生士の倫理綱領に謳われていることについて誓います」と力強い宣誓があった。

藤内学部長からは「今までの学生生活とこれから医療人として過ごす学生生活は大きく変わります。医療人としての意識を明確に持ち、実習に臨んでください」とメッセージが送られた。また、金久弥生学科主任からは「みなさんは患者様からの『ありがとうございます』に見合う姿勢で臨床実習に臨んでください。また、歯科衛生士としての根拠を持って衛生活動ができるよう、成長してくれるごとに期待しています」と激励があった。



宣誓をする学生代表の小野瀬さん

MEIKAI NEWS LETTER 第246号（令和4年4月発行）

ホワイトコートセレモニー開催 歯科医師への決意新たに

4月5日、坂戸キャンパスで「ホワイトコートセレモニー」が開催された。このセレモニーは、5年次から開始される臨床実習に向けて、歯科医師になるためのモチベーション向上を図ることを目的に、学生に白衣の授与を行うもの。当日は、申基詰歯学部長からの訓示、中村睦夫歯学部同窓会長からの祝辞の後、石田りえさん、古谷真彦さんの2人が代表して中村会長および若尾樹歯学部同窓会専務理事から白衣を授与された。その後、徳安颯さんから「医療に携わる一員として、積極的に臨床実習に参加することを誓います」と学生代表宣誓が述べら



中村会長(中央右)、若尾専務理事(中央左)と5年生ら
※撮影のためマスクを外しています

れた。白衣はこの日のために歯学部同窓会によって製作・贈呈されたもので、左胸ポケットにはギリシャ神話に登場する名医アスクレ庇オス（Aesculapius）が持つ杖と、国際未来社会で活躍する歯科医師をイメージした地球をモチーフとしたエンブレムが施されている。学生はネーム入りオーダーメイドの白衣を手にし、歯科医師になるための決意を新たにした様子だった。

MEIKAI NEWS LETTER 第246号（令和4年4月発行）

パラオ共和国での 日本人戦没者遺骨収集事業に 坂教授らが従事

5月17日から29日までの13日間、パラオ共和国での日本人戦没者遺骨収集事業に歯学部歯科法医学分野所属の坂英樹教授、岩脇淳志講師が参加し、大学院歯学研究科3年の二反田淳春先生が同行した。

この事業は厚生労働省が「戦没者遺骨収集推進戦略」に基づき実施している戦没者の遺骨収容事業の一環で行われており、未帰還である日本人戦没者のご遺骨を、歯科法医学的・人類学的な見地から鑑定を行ったうえ、日本に帰還させるために坂教授らが派遣された。

海外戦没者（硫黄島、沖縄を含む）は約240万人にのぼる。令和3年度末の時点で未収容の御遺骨約112万柱のうち約23万柱が相手国・地域の事情により収容困難な状況にある。また、平成28年度から令和6年度の9年間は集中実施期間と定められていたが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の状況に配慮しつつ、可能な範囲で事業が進められている。

今回の派遣で坂教授は、慰靈事業人類学専門員として人種鑑別を行い、ペリリュー島で10柱を確認した。



遺骨収集作業の様子

MEIKAI NEWS LETTER 第247号（令和4年7月発行）

■ 東京歯科大学 ■

令和3年度日露医療協力推進事業 第1回テレカンファレンス開催

2021年12月2日(木)午後3時より、オンラインにて、第1回日露歯科分野シンポジウムが開催された。本シンポジウムは本学が採択されている、厚生労働省日露医療協力推進事業（歯科分野の協力）の一環として、厚生労働省およびロシア保健省の後援と、歯科麻酔学講座一戸達也教授と本学姉妹校のモスクワ国立医科歯科大学歯科麻酔学講座 Solomon A Rabinovich 教授とのこれまでの10年以上にわたる学術交流を基に実現した。

シンポジウムは、「Modern Methods of Pain Management and Sedation in Dentistry」と題して、安全で快適な歯科治療のために有用であり、日本で広く普及している精神鎮静法、特に静脈内鎮静法にフォーカスを当て、日本とロシアが情報の交換と共有を行い、両国の患者さん達により質の高い歯科治療を提供できるようになることを主要な目的としている。

当日は、開会に際し、井出吉信理事長・学長、モスクワ国立医科歯科大学 Vladislav A Mitronin 歯学部長、厚生労働省国際医療展開推進室中山陽輔課長補佐よりご挨拶をいただき、一戸教授、歯科麻酔学講座の小鹿恭太郎准教授、オーラルメディシン・病院歯科学講座の松浦信幸教授、Rabinovich 先生、モスクワ国立医科歯科大学麻酔科教授 Larisa A Zavodilenko 先生が講演を行った。その後の総合討論では、日本とロシアの法制度の差に基



づく、歯科医療における全身麻酔や精神鎮静法の提供体制や使用薬物の違いに加えて、歯科医学教育における歯科麻酔学の教育内容の現状など、幅広い範囲にわたって活発な意見交換がなされた。

本シンポジウムへの参加人数は計113名（日本：79名、ロシア：31名、中国：1名、台湾：1名、フィリピン：1名）と、想像を上回るものであった。オンライン、また、日露同時通訳を介した配信だったので、歯科麻酔を専門とする歯科医師のみならず、本学職員にとつても歯科麻酔の専門的な講演ばかりではなく、ロシアの歯科医療事情の一端を知るための大変貴重な機会となった。

今後は、新型コロナウイルス感染拡大が収束すれば、本事業の一環として本学の教員がモスクワを訪問し、ロシア人歯科医師が静脈内鎮静法の研修を受ける場を提供するとともに、ロシア人歯科医師が東京歯科大学で一般専修科生として静脈内鎮静法の研修を受ける機会を提供することについても計画している。

東京歯科大学広報 第303号（令和4年2月発行）

第12代学長に一戸達也教授が就任

2022年5月31日をもって任期満了を迎える井出吉信学長の後任の学長選任は、学校法人東京歯科大学寄附行為に定められた手続きに従い、2022年3月22日(火)開催の第731回講座主任教授会の推挙を受け、2022年3月30日(水)の第738回理事会にて、一戸達也教授の新任が決定した。任期は2022年6月1日から2025年5月31日までの3年間である。



東京歯科大学広報 第306号（令和4年8月発行）

理事長・学長就任式開催

理事長・学長の就任に伴い、2022年6月1日(水)午後5時より水道橋校舎新館血脇記念ホールにおいて、理事長・学長就任式が執り行われた。

法人役員として、井出吉信理事長、一戸達也常務理事、西田次郎常務理事、片倉朗常務理事、加藤靖明常務理事、濫谷國男常務理事、橋本正次常務理事、松井淳一常務理事、金森越哉理事、石井拓男監事、水野嘉夫監事、榎原一夫監事、五木田彬顧問が、規定役職者として、一戸学長、鳥山佳則短期大学学長、片倉副学長・千葉歯科医療センター長、山本仁副学長、松井副学長、山下秀一郎水道橋病院長、西田市川総合病院長、齋藤淳大学院歯学研究科長が登壇した。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、出席者は水道橋校舎教職員のうち教授、准教授、講師、部長、課長、係長に限定して行い、就任式の模様は、オンラインにて全教職員に配信された。



東京歯科大学広報 第306号（令和4年8月発行）

■ 昭和大学歯学部 ■

濫谷勲兼任講師と 高見正道教授が学会賞を受賞

濫谷勲兼任講師（歯学部口腔生化学講座・帝京大学医学部准教授）と高見正道教授（歯学部歯科薬理学講座・薬理科学研究センター）が第29回硬組織再生生物学会学術大会・総会において、骨巨細胞腫の研究により最高位の学会賞を受賞した。

骨巨細胞腫は、腫瘍内部に発生した多核巨細胞が骨を吸収・破壊する疾患であり、日本での年間発症数は数百人程度と推定される。濫谷兼任講師と高見教授は、腫瘍細胞における原因遺伝子の変異や腫瘍内で産生されるタンパク質の種類を解析し、骨巨細胞腫の発生メカニズムを明らかにした。その成果が高く評価され同賞に選定された。



左から濫谷勲兼任講師、高見正道教授

昭和大学新聞 第601号（令和4年1月発行）

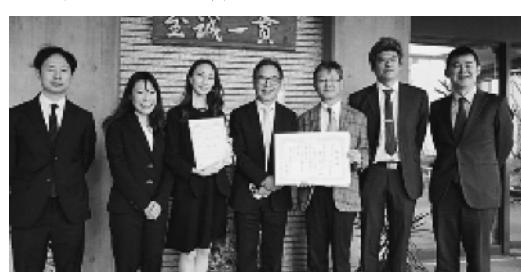
歯科補綴学講座の 研究チームが特許を取得

歯科補綴学講座の研究チームが「歯科用インプラント及び表面処理方法」の発明において特許を取得した。歯科用インプラントは、歯槽骨だけでなく、その周囲の歯肉（粘膜組織）に密着するため、歯槽骨及び歯肉と親和性が重要である。本発明は、チタン系材料に代わる新たなインプラント材料として、セリア安定化ジルコニア／アルミナ・ナノ複合体 ($\text{Ce-TZP}/\text{Al}_2\text{O}_3$) に着目した。

歯槽骨に埋め込まれるフィクスチャーの表面に微細な凹凸形状からなる微細構造を有し、歯肉を貫通して配置されるアバットメントは、歯肉と接触する頸部の表面が鏡面からなることを特徴としている。これにより、歯槽骨及び歯肉等の生体組織に対する親和性、審美性に優れかつインプラント周囲炎等の予防効果にも優れる歯科用インプラント及びその表面処理方法を提供することができる。この結果、歯科用インプラントの耐久性、持久性が向上し、長期にわたって優れた使用が可能となった。

【特許概要】

発明の名称：歯科用インプラント及び表面処理方法
発明者：馬場一美、岩佐文則、秋山友里、大澤昂史、三田稔、松本貴志、大嶋瑠子
特許出願：2019年11月28日（出願番号：特願2019-215305（P2019-215305））



歯科補綴学講座の研究チームと三邊統括研究推進センター長（右）

特許登録：2021年10月11日（登録番号：特許第6958874号）

特許情報リンク：<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/p0200>

昭和大学新聞 第602号（令和4年2月発行）

四宮寛大さん（歯学部5年）が Joseph Lister Award を受賞

第69回国際歯科研究学会日本部会（JADR）総会・学術大会（10月24日～25日：九州大学・オンラインのハイブリット開催）で、四宮寛大さん（歯学部5年）がJoseph Lister Awardを受賞した。

同賞は、1860年代に防腐法を発見し無菌外科手術への道を開いたジョセフ・リスターの名を冠したものであり、研究者をめざす歯学部の学生にとって目標の一つになっている。

四宮さんは演題名「Characterization of neural crest-derived cells for application in bone regenerative medicine（骨再生医療への応用のための神経堤由来細胞の同定）」が高く評価され、同賞に選定された。

【四宮寛大さんのコメント】

今回の研究では、骨再生のための細胞ソースとして神経堤由来細胞に着眼しました。神経堤由来細胞の一部は組織幹細胞として成体の組織内に残ることは知られていますが、その中から口腔組織の再生に用いることができる細胞を同定し、高純度に採取する方法は確立されていません。細胞ひとつひとつの遺伝子発現様式を検出できるシングルセルRNAシークエンス解析を行い、神経堤由来細胞の中から組織幹細胞と考えられる細胞集団を見出しました。

発表は質疑応答も含め、全て英語で行いました。将来グローバルな場で活動するための非常に貴重な経験を積むことができたと思っています。

今回このような名誉ある賞を賜りまして、ご助力くださいました口腔生化学講座の上條竜太郎教授、国際交流



四宮寛大さん（歯学部5年）

センターの橋本みゆき教授をはじめ、多くの先生方に心より感謝を申し上げます。

昭和大学新聞 第602号（令和4年2月発行）

歯学部卒業生の塚崎雅之さんが 文部科学大臣表彰を受賞

4月8日、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が発表され、歯学部卒業生（31回生）の塚崎雅之さん（現：歯学部口腔生化学講座 兼任講師/東京大学大学院医学系研究科免疫学 特任助教）が若手科学者賞を受賞した。

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲、およびその水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めている。若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を表彰するもの。

塚崎さんは、「骨組織の恒常性維持と破綻における多細胞ダイナミクスの研究」が高く評価され、このたびの受賞が決定した。表彰式は、4月20日に文部科学省にて行われた。

【塚崎雅之さんのコメント】

この度は文部科学大臣表彰を賜り、大変光栄に感じております。私は、昭和大学（東京都品川区）の近郊で代々続く歯科医院の長男として生まれ、中高は慶應義塾に学びエスカレーターで大学進学予定でしたが、土壇場で親の跡を継ごうと思い立ち、父（歯学部3回生）の母校であり、叔父（歯学部補綴学講座元准教授）の職場であった昭和大学に進学しました。実家を継ぐために入学したはずが、学部2年生の時に拝聴した須田立雄先生（昭和大学口腔生化学講座名誉教授）の特別講義「基礎医学研究の醍醐味」に感激し、基礎研究の道に進みました。昭和大学在学中から口腔生化学講座で上條竜太郎教授、山田篤准教授に研究をご指導頂き、卒後は東京大学



医学部で高柳広教授のもと、骨代謝学・骨免疫学の研究を続けて参りました。学部時代から数えて約12年間の研究成果が、今回このような形で評価頂けたことをありがたく感じると同時に、昭和大学在学中にお世話になった先生方、本賞の推薦者となってくださった歯科基礎医学会理事長の井上富雄先生（昭和大学口腔生理学講座教授）、須田立雄先生、高柳広先生、そして数多くの共同研究者の皆様に心より感謝しております。

昭和大学新聞 第606号（令和4年6月発行）



第4実習室

■ 日本大学歯学部 ■

日本大学歯学部 創設100周年記念事業 日本大学歯学部本館竣工



小児歯科診療室



南側テラス



実習室(スキルラボ)



図書館



歯科病院診療室

日本大学歯学部は、平成28年4月15日に創設100周年という大きな節目を迎えました。

当該記念事業の一環として、本館は、「教育・研究・臨床の融合」を図る新校舎・新歯科病院を建設するとい

うコンセプトの下で、Ⅰ期工事エリアにおいて歯科病院が平成30年度に完成、Ⅱ期工事エリアにおいて講義室及び図書館等が令和3年度に完成し、令和4年4月1日から本格稼働しました。

新校舎棟は、2階と3階に165人収容の講義室が配置され、1年生から6年生までの全ての学生が新しい講義室を利用します。4階は、実習室を配置し、5階から7階までは、基礎系の講座ラボと材料・組織系・培養系・動物系の実験を行う共用ラボを配置します。1階と地下1階には、グループスタディルームや共用試験(CBT)の実施も可能なラーニングコモンズ型の図書館が、また、地下1階には憩いの場として、ラウンジが配置されました。

桜歯ニュース 第214号(令和4年4月発行)



活上の諸注意等についての説明があり、続いて教務課及び学生課からの事務説明、教員による施設案内、図書館事務課による図書館ガイダンスが行われた。また、102教室においては、在校生によるクラブ紹介が行われた。

松戸歯ニュース 第180号(令和4年4月発行)

■日本大学松戸歯学部■

故・泉 廣次 先生に正五位

口腔外科学Ⅰの初代教授であり第6代松戸歯学部長を務められた泉 廣次 日本国名誉教授が、令和4年1月26日に逝去された。

生前に同人が行った学術進歩と教育の興隆への寄与、延いては国家社会への顕著な貢献が認められ、「正五位」に叙せられた。

これを受け、3月17日に松戸歯学部にて位記伝達式を挙行。御遺族に位記を伝達した。



松戸歯ニュース 第180号(令和4年4月発行)

令和4年度 松戸歯学部開講式を挙行

4月4日、本学部101教室において令和4年度開講式が新入生127名、教職員出席のもと執り行われた。

式典は、小方 学部長による式辞にはじまり、後援会会長・同窓会長による祝辞、新入生代表による宣誓、校歌演奏と続き、厳粛のうちに閉式となった。

開講式閉式後にはガイダンスが実施された。小見山学務担当から修学について、野本 学生担当から学生生

■日本歯科大生命歯学部・ 日本歯科大学新潟生命歯学部■

本学創立 116周年式典

富士見に代表のみ参列

本学の創立116周年記念式典は、6月1日の創立記念日に東京・富士見で挙行された。新型コロナウイルス感染防止のため、本学役職者と永年勤続表彰の代表者等、約50名が参列した。あわせて、飯塚哲夫先生への名誉博士号授与式が催された。今年も記念祝賀会、ジュビリー5025は中止となった。

日本歯科大学創立116周年記念式典は、6月1日午前11時から本館富士見ホールにおいて、代表約50名が参列して挙行された。

まず田口潤庶務部長が新型コロナウイルスの感染対策として、式典は規模を縮小し、簡略化したことを謝し、開会を宣した。

例年通り築土神社の神職による神事が執り行われ、修祓、降神ののち、祝詞で本学の沿革が奏上された。ついで、参列者を代表して、中原泉理事長が神前に進みて、玉串を奉奠し全員で拝礼した。

神職退場ののち、中原理事長が挨拶にたち、創立116周年の式典を挙行し、創立者中原市五郎先生はじめ幾多の先人に感謝を捧げた。

つづいて、名誉博士号授与式に移る。

中原理事長は、飯塚哲夫先生を紹介し、本学50回卒で、近代口腔科学研究会を主宰し、トップスターとして歯科界を先進的かつ革新的に牽引されたと、その功績を称賛した。

ここで、中原理事長より飯塚先生に、第25号の名誉

博士の学位記が授与された。

このあと、飯塚先生より、一時代を築いた活動の経緯と本学との縁について謝辞が述べられた。

ついで、永年勤続者表彰に移る。30年勤続者14名、20年勤続者18名が呼びあげられ、代表して松野智宣教授が、中原理事長より表彰状を授与された。

これをもって、12時に閉式した。



名誉博士 飯塚哲夫先生

日本歯科大学新聞 第679号（令和4年9月発行）

■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

中山京大教授 中原本学教授 競演

再生医学が未来拓く

東京 歯の細胞とiPS細胞の可能性

東京都港区麻布赤坂歯科医師会創立100周年および京都大学iPS細胞研究所(CiRA)設立10周年の創立記念市民公開講座「再生医学が未来を拓く～歯の細胞とiPS細胞の可能性～」が、両会の主催により3月17日、港区の国際医療福祉大学赤坂キャンパスの講堂において開催された。新型コロナ対策として隔席にした講堂には、約300名の参加者が着席した。

17時、麻布赤坂歯科医師会の大坪邦彦副会長（本学76回卒）の司会により開会した。

まず司会より、末松信介文部科学大臣の「わが国再生医療の取り組みに敬意と感謝を申しあげる」との祝辞が披露された。

はじめに、綱島俊幸会長が「新型コロナ禍のため2年延期したが、昨夜の大地震をうけながら、晴れて本日開催の運びとなった」と、開会の挨拶を述べた。

次いで、第1部の講演(1)のトップバッターとして、日本歯科大学の中原貴教授が、「歯の細胞と再生医療」を口演した。

中原教授は「歯は人体の中でユニークな面白い組織であり、歯性幹細胞は、生命歯学として全身疾患の治療に役立てることが可能である」とし、本学独自の歯の細胞バンクから、私立大学第1号となる再生医療の計画の審査をする「特定認定再生医療等委員会」等について、細胞培養加工施設での培養業務、抜去乳歯や親知らずの細胞の採取法等の写図をmajieながら、30分間分かり易く解説した。



次に、講演(2)の京都大学iPS細胞研究所の濱崎洋子教授が、「免疫の老化と再生医学」に関し、感染性微生物に対する感染防御と排除する免疫システムを解説し、「このうちT細胞は、抗生産生や食細胞の活性を制御し、ウイルス感染細胞やがん細胞を殺傷する」と、とくに胸腺退縮機構一端からT細胞の加齢変化の実態と意義について30分間解説した。

次いで、講演(3)の京都大学iPS細胞研究所所長の中山伸弥教授が、「iPS細胞 進歩と今後の展望」に関し、体の細胞をリセットさせ、万能細胞をつくるiPS細胞（人工多能性幹細胞）について、「iPS細胞は、病気などの組織や臓器を回復させる再生医療への利用、また病気のメカニズムを探り新しい薬を作る「創薬研究」を広くすすめている」と、これまで歩んできた革新的な道のり、iPS細胞研究所の現状と今後の展望を、ユーモアをmajieながら30分間解説した。

休憩のあとシンポジウムに移る。モデレーターの神奈川歯科大学の河奈裕正教授が3教授に質疑する。中原教授は、多分化能をもつ歯性幹細胞の有用性を重ねて説いた。

中山教授は、「未開拓の領域のもつポテンシャルは大きく、iPS研究における発展の可能性は高い」とし、歯科との共同研究に大いに期待した。

さらに、若い研究者たちに「挑戦して失敗しても、失



敗の中にチャンスがある」とアドバイスした。

おわりに、山中教授が謝辞を述べて、19時半に閉会した。

日本歯科大学新聞 第674号（令和4年3月発行）

桑田正博先生 約300点の寄贈

新築の東京短大内記念館に展示予定

このたび本学は、故桑田正博先生より、記念の品々約300点の寄贈をうけた。

桑田先生は、金属焼付ポーセレン（PFM）の開発者として知られる歯科技工士で、歯科補綴学、歯科技工学、咬合学等幅広い分野において活躍しその功績は国際的に高い評価をうけていた。去年7月16日東京で死去された。享年85歳。

寄贈された記念品は、神楽坂上に新築予定の東京短期大学の桑田記念館に、展示・保管することになっている。

日本歯科大学新聞 第675号（令和4年5月発行）

米山武義名誉博士 日本歯科医学会会長賞受く

本学名誉博士の米山武義先生は、日本歯科医学会会長賞を受賞した。

令和4年2月18日にオンライン開催の同学会評議員会において、日本老年歯科学会推薦により米山先生は、同賞（研究部門）を受けた。

米山名誉博士（本学68回卒・静岡県）は、口腔衛生管理により、特別養護老人ホームの要介護者・高齢者の呼吸器疾患の発症数や死亡者数が減少することを実証した。その研究「口腔ケアの誤嚥性肺炎予防効果」は1997年に「Lancet」誌に発表され、新しい口腔ケアの時代をひらいた。

日本歯科大学新聞 第675号（令和4年5月発行）

村上先生殿堂入り 「2022年 KYOTO 地球環境の殿堂」

アフリカのマリ共和国でのボランティアが33年となる村上一枝先生（54回卒）は、このたび、京都府の主催する「2022年 KYOTO 地球環境の殿堂」に殿堂入りが決まった。

これは地球環境の保全に貢献した人を顕彰する国際的な賞で、申請や応募ではなく指名される。NGOでは、アフガンで殺害された中村哲氏について2人目である。

11月に京都で表彰式が催され、国立京都国際会館の殿堂に名前と業績が飾られる。

村上先生は、これまで「医療功労賞」はじめ12の賞をうけている。

日本歯科大学新聞 第675号（令和4年5月発行）

日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

中谷助教優秀賞受賞

日本歯科薬物療法学会

新潟生命歯学部新潟病院の口腔外科の中谷佑哉助教は、昨年9月26日、第41回日本歯科薬物療法学会学術大会において、一般演題の優秀賞を受賞した。

受賞の演題は、「口腔乾燥を伴った口腔カンジダ症に対しミコナゾール付着錠が著効した一例」である。

日本歯科大学新聞 第674号（令和4年3月発行）

神奈川歯科大学 ■

「令和3年度 神奈川県警察協力歯科医研修会」開催される

毎年、法医学講座では神奈川県歯科医師会主催の神奈川県警察協力歯科医研修会に指導協力しています。今年度は県警より新規嘱託された警察協力歯科医42名が参加しました。事前収録した講義を各自視聴後、2021年10月24日(日)、本学にて実習を行いました。

実習室では生前・死後の事例ファイルからデンタルチャートの作成・照合判定、遺体様マネキンを用いて口腔内写真やX線撮影そして鑑定書作成を行いました。解剖室では3体の身元不明遺体の歯科所見採取を行いました。有事の際は即戦力として活躍されることを期待しています。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第42号（令和4年1月発行）

病院だより

附属病院では2020年から「ハブラシコンセイエ」制度を設け、年1回の認定試験や年数回の認定研修会を開催しています。2020年には75名、2021年には12名が認定試験に合格しており、院内には現在76名のハブラシコンセイエが勤務しています。2020年の制度発足時に特許庁へ「ハブラシコンセイエ」と「認証バッヂのデザイン」の商標登録を出願しました。審査の結果、2021年10月に商標登録証が交付されました。



院内ではハブラシコンセイエが患者様一人ひとりの口腔状態に適した、口腔清掃製品をご紹介する「口腔ケアお勧め処方箋」を発行して、歯ブラシや歯磨剤、口腔ケアに関する製品をお勧めしております。

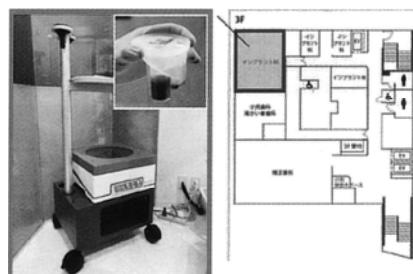
学校法人神奈川歯科大学新聞 第43号（令和4年5月発行）

クリニックだより

本学初再生医療提供計画

再生医療といえば中山伸弥先生のiPS細胞を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか。再生医療とは、「患者の細胞を培養等加工したものを用いて、失われた組織を修復・再生する医療」であり、2014年11月に関係法律が施行されました。からだにはいろいろな細胞に分化し、組織を修復・再生する幹細胞や、創傷治癒を促進するサイトカインが存在しています。これらを治療に応用することで、これまでの精製医薬品とは異なる治療効果が期待されています。

本法人には、既に医学、歯学、法律の専門家により構成される再生医療等委員会と事務局が関東信越厚生局の認可を受け、設置されています。また、横浜クリニック内には認定細胞製造加工エリアが設けられ、感染リスクに配慮した完全閉鎖系システム（テルモ株式会社）を用いた骨髓濃縮液、多血小板血漿や血小板フィブリンを用いた口腔領域の再生医療提供準備を終えています。あとは再生医療等委員会による審査を済ませて厚生労働省認可を取得すれば、新たな再生医療提供が始まります。「時代の最先端を！ 神奈川歯科大学」隨時情報の更新をしてまいりますので応援よろしくお願いします。



横浜クリニック内認定細胞製造加工エリア

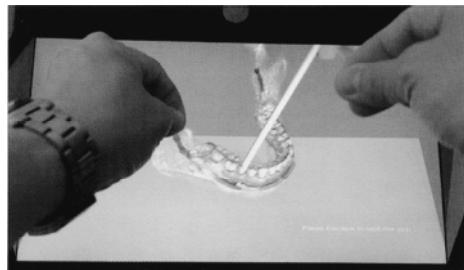
学校法人神奈川歯科大学新聞 第43号（令和4年5月発行）

大学院だより

大学院XR研究所

XR (Extended Reality) とは、VR バーチャルリアリティ（人工現実感）と AR（拡張現実）の両方を含んだ呼び方です。VR/AR の発展は目覚ましく、様々な分野で社会実装が進んでいます。VR/AR を用いて複数の人々が3D バーチャル空間を共有する「メタバース」も話題になって

います。本研究所では、歯科医学・医療におけるXRの更なる活用を目指し、研究開発と実用化を推進しています。スマートグラスや空間再現ディスプレイなど最先端の立体表示機器や、モーションセンサーと触覚発生装置、AI画像処理技術を駆使して、今までにない新たなシステムを開発しています。解剖学・歯科補綴学・歯内療法学の教育・実習・診療支援システムを開発中で、ソニーと共同で製品として販売展開しているアプリもあります。学会発表や論文投稿を積極的に行うと共に、企業や自治体との連携プロジェクトも複数進行しています。当研究院では、アカデミックとビジネスの両面を学びながら研究を進められます。XRと歯科医療は今後大きな発展が見込まれますが、取り組んでいる人はまだ少ないため、ブルーオーシャンといえます。この分野の先駆者になって、世界に羽ばたいてみませんか。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第43号（令和4年5月発行）

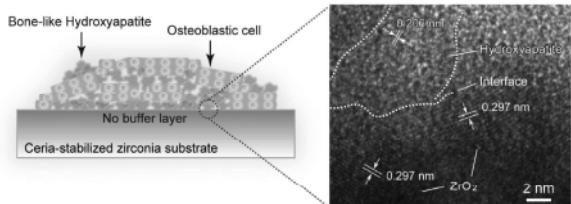
■鶴見大学歯学部■

歯学部分子生化学講座・ 齊藤まり助教の研究論文が Materials Science and Engineering C(IF=7.328)に掲載されました

齊藤まり先生（分子生化学講座・助教）は2020年度および2021年度の外部研究助成金を第一稀元素化学工業株式会社より交付され、この度その研究成果がMaterials Science and Engineering C誌 (Saito M.M., Onuma K., Yamamoto R., Yamakoshi Y. (2021) 121 : 111665) に掲載されました。

齊藤先生の研究は、近年歯科診療に用いられるようになったセリヤ安定化ジルコニア/アルミニウム複合体(Ce-TZP)を歯科インプラント材として応用するため、Ce-TZPのもつオッセオインテグレーション能について透過型電子顕微鏡等を用いて詳細に解析しました。内容は、Ce-TZP上に形成された石灰化物とCe-TZPが直接結合することをナノスケールレベルで新規解明したもので、従来のインプラント材であるチタンとは異なり、Ce-TZPと骨が軟組織を介さず直接結合する優れたオッ

セオインテグレーション能を持つことを示しています。今回の発見は、今後の歯科インプラント研究においても多大な情報を提供することになり、また歯科インプラント治療の成功率の向上にも貢献することと思われます。齊藤先生のさらなる研究に期待いたします。



（分子生化学講座教授 山越 康雄 記）
鶴見大学報 第430号（令和4年3月発行）

江口貴紀助教 公益財団法人 大下財団 2022年度大下財団研究助成決定

公益財団法人 大下財団 2022年度大下財団研究助成に、歯学部口腔顎面外科学講座の江口貴紀助教の「無菌蚕由來のシルクフィブロインによる人工骨膜の開発」(研究期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日、助成金額：1,000千円)が採択された。この研究助成は、生物機能の産業利用・工業化研究を対象としたものである。そのため、本研究費での基礎的研究を実施予定としている。

（口腔顎面外科学講座教授 濱田 良樹 記）
鶴見大学報 第431号（令和4年5月発行）

臨床研修歯科医修了証授与式・ 辞令伝達式

3月30日(水)大学記念館記念ホールにおいて、五味一博病院長のもと令和3年度臨床研修歯科医60名の修了証授与式が執り行われた。また4月2日(土)には同ホールにおいて小川匠病院長のもと令和4年度臨床研修歯科医辞令伝達式が執り行われ、68名の臨床研修歯科医の臨床研修が開始された。

鶴見大学報 第432号（令和4年5月発行）

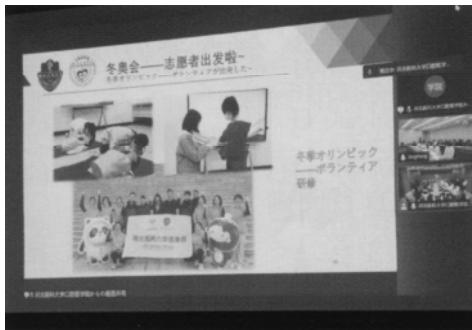
■松本歯科大学■

河北医科大学と相互臨床実習 オンラインで学生が交流

2021年12月28日(火)、本学は昨年に引き続き、河北医科大学と2回目のオンライン臨床実習を実施した。本学の第5学年生6人(岩崎将和、^{オ・ジエイ・ゴン}戴乾、^{シャ・ブン・ジ}謝文妃、鄭宗烈、長尾将平、頼本優季)と河北医科大学の5年生5人が参加し、お互いの大学病院の医療体制や臨床実習内容について紹介し合い、触発される情報交換が行われた。



オンラインで本学を紹介する5学年生



河北医科大学の臨床実習紹介画面

Campus Today 第458号(令和4年3月発行)

第8回「カムカムメニュー 写真コンテスト」表彰式 最優秀賞は「美容と健康に♡ オートミール de カムカムバー」

松本歯科大学「カムカムメニュー写真コンテスト」の表彰式が12月11日(土)、本学北棟ラウンジで催された。

同コンテストは「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに食感や噛み応えのある“カムカム(噛む・噛む)メニュー”的レシピを募るもので、2014年から毎年開催されている。認知度は年々高まり、今回は県内はもとより、インスタグラムで作品募集を知った人たちからの応

募もあり、北海道、東京都、埼玉県、大阪府など全国から作品が寄せられた。

審査の結果、藤升泉さん(松本市・歯科衛生士)の「美容と健康に♡オートミール de カムカムバー」が最優秀賞に選ばれた。オートミールをココナッツオイルでしつかり炒めることで噛み応えを出し、イチジクのドライフルーツ、アーモンド、カボチャやヒマワリの種などを細かく刻んで混ぜ合わせ、食感を楽しめるように工夫されていて、そのオリジナリティが評価された。



最優秀賞を受賞したカムカムバー



川原学長から表彰を受ける藤升さん(左)
Campus Today 第458号(令和4年3月発行)

矢島安朝病院長が 日本歯科医学会会長賞「教育部門」 を受賞

日本歯科医学会では、毎年、歯学研究や教育、地域歯科医療に貢献した歯科医師に学会最高の顕彰である会長賞を授与しているが、本年度「教育部門」に本学病院長・口腔インプラントセンター長の矢島安朝特任教授が受賞した。

この「教育部門」は、歯科医学教育に30年以上従事しその向上に特に著しい功績があったと認められる者に贈られる、大変栄誉ある賞である。

矢島先生は、1980(昭和55)年に東京歯科大学を卒業後、同校にて一貫してインプラント学一筋で、教育、研究に励んでこられた。インプラント学は多領域連携型の包括的学問であるという視点から、2005年東京歯科

大学千葉病院に口腔インプラント科が開設され、矢島先生が初代教授となられ、その後2007年に口腔インプラント学研究室、2009年には口腔インプラント学講座に昇格となった。

口腔インプラント学の学習方略の基本を構築され、日本で最初の口腔インプラント学講座を立ち上げた創成者であるといつても過言でない。



日本歯科医学会会長賞を受賞した矢島病院長

Campus Today 第460号（令和4年5月発行）

第2学年有志が新入生サポート隊を結成 入寮時に引っ越し荷物の搬入等を手伝う

4月2日(土)から3日(日)の2日間にかけて、第2学年の佐藤瑠海君を中心には有志17人は新入生サポート隊を結成し、新入生の学生寮キャンパスインへの入寮サ



サポート隊のメンバーたち



新入生の荷物の搬入を手伝う

ポートを行った。引っ越し荷物の手伝いをはじめ、寮の説明や学生生活のアドバイスなどを行い、先輩として新入生を温かく迎えた。

新型コロナウイルスの感染予防対策として新入生や保護者の方々に検温と手指消毒をご協力いただき、荷物の搬入をお手伝いし、各部屋の設備説明、キャンパスイン内のコンプライアンス、大学生活についての説明などを行った。

Campus Today 第460号（令和4年5月発行）

朝日大学歯学部

学修環境を充実

穂積キャンパス2号館2階では、歯学部の学修スペースを整備し、学修環境の充実がはかられました。

新たに整備されたのは、歯学部6学年における自学自修環境の整備及びカリキュラムと一体化した学修支援の提供を目的とした学修スペース「Asahi Academic Achievement Agora (162名収容)」、「グループ学習室(12名・26名収容)」の3室です。



グループ学習室



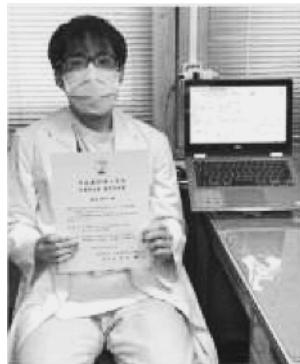
Asahi Academic Achievement Agora

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第137号
(令和4年1月発行)

「医歯薬出版株式会社賞」を受賞!!

歯学部歯科理工学分野の新谷耕平助教が、日本歯科理工学会学術講演会での研究発表「リン酸アンモニウムを利用したリン酸三カルシウム合成の検討」が高く評価され、「日本歯科理工学会 医歯薬出版株式会社賞」を受賞されました。

この賞は、優秀な研究発表を表彰し、研究発表の活性化が賛助会員の商品開発の大きな力となることを期待して創設された賛助会員のスポンサーシップによるものです。



「医歯薬出版株式会社賞」受賞の新谷助教

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第138号
(令和4年3月発行)

(JST)「さくらサイエンスプログラム」の支援を受け、南昌大学（中国江西省）と本大学歯学部が、ウェスタンケープ大学（南アフリカ共和国）と本大学歯学部・保健医療学部看護学科が、また、北京大学看護学院（中国）と本大学保健医療学部看護学科とが、それぞれ2月と3月にオンラインでの交流を行いました。

本大学は、「建学の精神」に基づきコロナ禍にあっても、積極的に国際交流を推進しています。



南昌大学の皆様



大友克之学長が挨拶



ウェスタンケープ大学との交流



北京大学看護学院との交流

「日本唾液腺学会奨励賞」を受賞!!

歯学部歯科薬理学分野の長瀬春奈助教が、日本唾液腺学会学術集会での研究発表「腺房細胞における Cdc42 の欠損は唾液分泌不全を呈する」が高く評価され、「日本唾液腺学会奨励賞（基礎的研究分野）」を受賞されました。

日本唾液腺学会は、基礎・臨床の視点から唾液と唾液腺についての学術的な討論や情報共有を行う学会で、「奨励賞」は優秀な研究テーマに授与される賞です。



「日本唾液腺学会奨励賞」を受賞した長瀬助教(左)

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第138号
(令和4年3月発行)

海外の大学とオンラインで国際交流

さくらサイエンスプログラムの支援を受けて

本大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第140号
(令和4年7月発行)

生涯研修を積極的に支援

朝日大学・明海大学歯学部生涯研修(CE)が開講

本大学歯学部及び明海大学歯学部が共同実施している歯科医師を対象とした生涯研修事業(CE)が、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点により「Web配信」を中心に4月から開講されています。

堀田正人歯学部生涯研修センター長は、すべて「Web配信」の「クリニカル・スキルアップコース:28コース」、「Web配信」と「対面」で実施の「クリニカル・ステップアップコース:6コース」への、積極的な受講を呼びかけています。

これまでの受講者は、日本全国各地で地域医療の中心的な役割を担う歯科医師として活躍しており、また、近年は大学院歯学研究科の学生や海外からの受講生を迎えるなど、CEは教育的かつ国際的な医療貢献活動へと発展しています。



知立研修センター(愛知県知立市)での研修

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第140号
(令和4年7月発行)

■ 愛知学院大学歯学部 ■

令和3年度

第56回歯学部学位記授与式を挙行

3月4日(金)楠元キャンパス110周年記念講堂で「令和3年度 第56回歯学部学位記授与式」を挙行し、卒業生106名へ引田弘道学長から学位記が授与されました。



式を終えた卒業生は、恩師に見送られ、晴れやかな表情で会場を後にしました。

愛知学院大学歯学部ホームページ(令和4年3月掲載)

愛知医科大学との包括連携協定を締結

3月28日(月)、愛知医科大学と包括連携協定を締結しました。

歯学部・薬学部・心理学部(令和4年4月開設)・心身科学部の医療系学部を擁する本学と、医系大学である愛知医科大学が連携して学生の臨床教育を行うことで、質の高い専門職に関わる人材育成を進めています。また、地域住民の健康を増進させる調査研究にも連携を取り組む予定です。

更に、名古屋市東部に隣接する長久手市と日進市にキャンパスがある利点を生かし、共同で地域の産官学の発展に寄与することも計画しています。

◆協定に基づく主な取組事項

- (1) 地域社会の健康課題への対応に関するこ
- (2) 学生の専門職としての資質向上に関するこ
- (3) 教育・研究を目的として両大学で人事交流するこ
- (4) 教育・研究を目的として両大学が所有する施設設備を共同で使用すること
- (5) 各種事業の相互連携に関するこ
- (6) 教育・研究及びその他の諸活動に関する情報交換・協働に関するこ
- (7) その他、本目的を達成するために両大学が必要と認めるこ

愛知学院大学歯学部ホームページ(令和4年5月掲載)

動物慰靈祭を挙行

5月9日(月)110周年記念講堂にて第56回動物慰靈祭が執り行われ、引田学長をはじめとする教職員のほか、歯学部・薬学部の学生が参列しました。

式では、歯学部・薬学部での教育・研究のため尊い命を捧げた動物たちへ感謝の念を示すとともに、冥福をお祈りし、歯学部学生が代表として慰靈の言葉を述べました。





愛知学院大学歯学部ホームページ（令和4年5月掲載）

歯学部・薬学部の1年生合同 IPE 実施

6月10日(金)、医療系の学部学科が複数設置されている本学の特色を活かし、多職種連携教育(IPE: Inter-professional Education)として合同授業を行いました。

歯学部歯学科・薬学部医療薬学科の1年生の学生251名が参加し、グループに分かれ、PBL(Problem Based Learning: 問題基盤型学習)による課題の討論や発表を行いました。

現在、医療現場において、それぞれの専門を生かしたチームワークが大切になっています。

専門職としての能力に加え、専門性や個性、文化が異なる相手との良好な関係を構築するコミュニケーション能力が必要とされています。

今回は、家族の事例をもとにしたシナリオを用い、自職種および相手の職種の役割を考え、多職種連携医療をイメージし、医療関連職と協力しながら各自の専門性を発揮するチーム医療の重要性を学びました。

参加した学生からは「他の学部の人と意見交換をしたときに、自分の学部とは異なる視点からの意見を出してもらえ勉強になった。」「他の学部の違う職業を目指す人との交流ができて楽しかった。」「歯学部と薬学部の双方から出た意見や考えをまとめてひとつの結論を出すことが面白かった。」などの感想があり、充実した授業となりました。

引き続き今年度歯学部では、3年生で藤田医科大学



専門職連携教育 アセンブリⅢ、5年生で薬学部に短期大学部(歯科衛生士)、専門学校(歯科技工士)の学生が加わったIPEを実施する予定です。

愛知学院大学歯学部ホームページ（令和4年6月掲載）

■大阪歯科大学■ 高齢者歯科学講座 学術大会賞を3年連続受賞

2021年11月27・28日、第20回日本睡眠歯科学会学術集会が北九州市で開催され(対面とオンラインのハイブリッド開催)、本学歯学部高齢者歯科学講座(附属病院睡眠歯科センター)の奥野健太郎講師が「菊池賞」を受賞しました。菊池哲・初代同学会理事長の名を冠したこの賞は、最優秀原著研究発表者に贈られるもので、今大会は口演・ポスターあわせて30演題の中から選ばれました。高齢者歯科学講座(睡眠歯科センター)では、大学院4年(当時)の小渕隆一郎さんが前々回大会で優秀発表賞を、眞砂彩子助教が前回大会で研究奨励賞を獲得しており、今回で3年連続の表彰となります。



日本睡眠歯科学会「菊池賞」を受賞した奥野講師(右)
2020年受賞の眞砂助教(左)と2019年受賞の小渕先生(中央)

◆ 2020年・第19回日本睡眠歯科学会学術集会 研究奨励賞
眞砂彩子 クラスター分析を用いた閉塞性睡眠時無呼吸患者の臨床像に関する検討

◆ 2019年・第18回日本睡眠歯科学会 優秀発表賞
小渕隆一郎 大阪歯科大学附属病院睡眠歯科外来における口腔内装置の使用継続率に関する臨床的検討



奥野先生の受賞研究テーマは「口腔内装置治療の夜間血圧サージに対する効果」

国内有数の睡眠時無呼吸症（OSA）の研究者である奥野先生は今回、血圧と無呼吸を同時に測定できるPTT（Pulse Transit time）血圧という新技術を用いて、口腔内装置（マウスピース）治療による夜間血圧サージ（急上昇）への効果を検討。OSAは高血圧の発症リスクになることが分かっていますが、さらに一歩進んで、マウスピース装着により無呼吸が改善し、夜中の血圧も下がることを明らかにしました。すなわち、マウスピースすることで無呼吸が抑えられ、無呼吸によって起こっていた血圧の上昇が抑えられたのです。

“今まで分からなかった病気の原因や病態、じつは睡眠中に答えがある”内科学の名著に記されたこの言葉にひかれて、OSAの研究に専心するようになった奥野先生。「睡眠時無呼吸はさまざまな病気の引き金になっている。その次に起こりうる病気一既に合併して悪化している高血圧とか、糖尿病とか、そういう後ろに潜んでいる怖い病気をコントロールする、治すためにマウスピース治療は非常に大事」といいます。そしてまた、「高血圧の患者さんを多く抱えている、町の循環器内科クリニックの先生には、いびきをかいいてて高血圧をコントロールできない患者さんに対して無呼吸の疑いをもって検査し、その後の歯科でマウスピース治療をする—こうした医科から歯科への治療の流れがあることを今回の研究を通じて知ってもらいたい」とも。

今回の受賞について、「3年連続は偶然ではない。睡眠歯科センターのチーム力だと思う。小渕先生、眞砂先生の研究が全国的に評価されたことで、本学で行っている研究が通用するという確信をもてた」と振り返った奥野先生。今後の抱負を尋ねると「これからもこの睡眠歯科という新しい分野において先駆的な役割を本学の睡眠歯科センターが担えれば。それを研究で示していく」と力強く話してくれました。

歯科のみならず医療業界全体でのマウスピース治療の普及率向上を目指す奥野先生の研究、診療はこの先も続きます。

大阪歯科大学ホームページ（令和4年2月掲載）

第31回歯科衛生士国家試験、令和3年度歯科技工士国家試験 2年連続で合格率100%を達成

3月25日、医療保健学部口腔保健学科61名、口腔工学科12名が受験した「第31回歯科衛生士国家試験」及び「令和3年度歯科技工士国家試験」の合格発表があり、見事全員が合格し、2年連続で合格率100%を達成

しました。

また社会福祉士コース受講の3名が「第34回社会福祉士国家試験」に合格しました。

医療保健学部第2期卒業生の皆さん、本当におめでとうございました。皆さんの新たなステージでのますますのご活躍を応援しております。

大阪歯科大学ホームページ（令和4年3月掲載）

日本歯科医師会雑誌2月号 「内の目・外の目」に 高橋教授、柏木教授のSDGs推進に関する記事が掲載されました

「大阪歯科大学におけるSDGs推進活動 歯科医療の現場から発信する～SDGsからその先へ～」の表題で、歯学部高齢者歯科学講座の高橋一也教授、歯学部有歯補綴咬合学講座の柏木宏介教授の記事が日本歯科医師会雑誌2022年2月号に掲載されました。



左：高橋 一也教授 右：柏木宏介教授

高橋 一也教授(高齢者歯科学講座)

「口腔機能管理を実践できる「かかりつけ歯科医」の育成で、地域包括ケアの推進を行う」

https://www.osaka-dent.ac.jp/about/torikumi/sdgs/pdf/sdgs04_04.pdf

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

4.3



4.3

2030年までに、全ての人々が国際基準を満たす教育を受けられるようにするための行動計画を策定する。誰もが学ぶ機会を確保するための行動計画を策定。公平な学習、評議、開拓、創造的思考を奨励する。

2.2

2歳未満の子供の健やかな成長と発育を促進するための行動計画を策定。母乳を2歳まで飲むことを奨励。母乳を飲むことは、子供の免疫機能を強化。公平な学習、評議、開拓、創造的思考を奨励する。

口腔機能管理を実践できる「かかりつけ歯科医」の育成で、地域包括ケアの推進を行う

患者さんのライフサイクルに沿って、口と頭に関する保健・医療・福祉を提供し、地域に蓄積したいつかの必要な情報を集め、地域に生きる歯科医としての役割を明確にして、推進する活動を行っています。

【口腔機能が低下する「オーラルフレイジ」は、全身のフレイジ、サルコニニア、低栄養など強く結びついていることが分かっています。如何に使う力を引き起こす口腔機能の低下下で、歯科医療の介入によってその速度を遅らせることができます。口腔内を見ただけでなく、患者さんとのコミュニケーションを適切にこなしながら判断をもって向き合い、気づきと介入のタイミングを逃さないことが重要です。



message

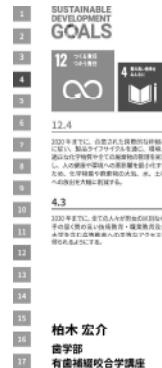
食べることは生きることです。「健口」の維持が「健康」につながります。超高齢社会に向けて地域包括ケアシステムの中で活躍できる歯科医師の育成がSDGs推進につながると考えます。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17

柏木 宏介教授(欠損歯列補綴咬合学講座)

「フェイススキャナーと三次元歯列データの統合で歯科補綴装置製作エラーの削減をめざす」

https://www.osaka-dent.ac.jp/about/torikumi/sdgs/pdf/sdgs12_01.pdf



フェイススキャナーと三次元歯列データの統合で歯科補綴装置製作エラーの削減をめざす

近年のデジタル技術の進歩により、補綴学領域では「デジタルデンティストリー」が確立されるようになりました。作業用模型がデジタルデータ化され、ソフтверアで設計、ミリングマシンでクラシック・ブリッジや歯冠のフレームなどを製作されています。それに加え、口腔内スキャナーも普及し始めています。



私は歯科の三次元形態情報をデジタルデータとして捕捉するフェイススキャナーと、CAD/CAMシステムによる三次元歯列データとの融合に関する研究に取り組んでいます。フェイススキャナーと併用のCAD/CAM技術を組み合わせたシミュレーションを通して歯科補綴装置製作メーカー(開発側)の視点、さらには医療徳業者の視点についてすることで、無駄な費用のない歯科補綴装置製作環境をめざします。

message
請の高い歯科 CAD/CAM システムを開発することで、安全・安心な歯科補綴治療技術と教育を社会へ提供する、労働力人口の減少とともに必要な医療業務の効率化、次世代医療システムに対応するため新たな技術革新に取り組む。

大阪歯科大学ホームページ（令和4年3月掲載）

■福岡歯科大学 ■

口腔医学研究センターシンポジウムを開催

令和3年12月10日、福岡歯科大学502講義室において「口腔医学研究センターシンポジウム2021～口腔医学の Rising Sun に出会う～」を開催しました。新型コロナウイルス感染防止に努めながら対面で実施された本シンポジウムでは、口腔医学研究の先駆的な立場の方々を講師としてお呼びし、それぞれの研究内容について講演いただきました。参加者は、各研究について興味深く聞き入っており、質疑応答では活発に意見が交わされました。



シンポジウムの様子

福岡学園広報誌 Vol.30 No.1 (第113号)
(令和4年1月発行)

福岡歯科大学口腔医療センター10周年記念報告会を開催

令和4年2月26日、福岡歯科大学口腔医療センターの開院10周年を記念した報告会が開催されました。口腔医療センターは、歯科大学の附属施設ならではの最新の技術と設備を備えた高度な医療を提供し、近隣歯科医院と連携することで地域医療に貢献するとともに、各種講座の開催を通じて地域の歯科医療従事者の生涯学習を行っていく拠点として、平成23年12月14日に開所しました。報告会では、泉利雄センター長をはじめとするスタッフ7名が、それぞれの業務における現状や課題、今後の展望等について報告を行い、さらなる地域医療への貢献に向けて、決意を新たにしました。



報告会の様子

福岡学園広報誌 Vol.30 No.2 (第114号)
(令和4年5月発行)

福岡歯科大学医科歯科総合病院に呼吸器内科を開設

福岡歯科大学医科歯科総合病院では、医科と歯科が連携して地域医療に貢献することを目指しており、新たに呼吸器内科を令和4年4月1日に開設しました。呼吸器内科では、専門医が慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、慢性咳嗽、間質性肺疾患、肺炎、睡眠時無呼吸症候群など呼吸器疾患の診断と治療に関する診療を行います。



福岡歯科大学医科歯科総合病院

福岡学園広報誌 Vol.30 No.2 (第114号)
(令和4年5月発行)

デントに採用され、研究課題に主体的に取り組み、物事の本質を見究める能力を磨いています。

福岡歯科大学学生研究支援プログラム リサーチ・スチューデントが決定

令和4年度の福岡歯科大学学生研究支援プログラムにおけるリサーチ・スチューデントが決定しました。

この制度は、普段の講義・実習の先にある「研究」に強い関心をもっている学生を支援するもので、リサーチ・スチューデントが行う研究活動には、研究指導を行う分野に対して1件あたり20万円を上限として支援金が交付され、充実した研究活動を行うことができます。

今年度は、7名の口腔歯学部生がリサーチ・スチュー



今年度のリサーチ・スチューデント採用者

福岡学園広報誌 Vol.30 No.3 (第115号)
(令和4年7月発行)

事業概要

令和3年度協会決算

令和4年度協会決算は、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録とともに監事の監査を経

て、令和4年6月29日の第94回定時総会に提出され、審議の結果、原案どおり承認された。

令和3年度収支計算書総括表

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

科 目	金額
I 事業活動収支の部	円
1. 事業活動収入	
① 基本財産運用収入	850
② 会費収入	47,800,000
③ 事業収入	0
④ 負担金収入	5,100,000
⑤ 雉収入	0
事業活動収入計	52,900,850
2. 事業活動支出	
① 事業費支出	39,075,643
② 管理費支出	11,037,910
事業活動支出計	50,113,553
事業活動収支差額	△ 2,787,297

科 目	金額
II 投資活動収支の部	円
1. 投資活動収入	
特定資産取崩収入	10,052,840
投資活動収入計	10,052,840
2. 投資活動支出	
特定資産取得支出	13,950,803
投資活動支出計	13,950,803
投資活動収支差額	△ 3,897,963
III 予備費支出	0
当期収支差額	△ 1,110,666
前期繰越収支差額	21,791,645
次期繰越収支差額	20,680,979

令和4年度 日本私立歯科大学協会事業計画

一般社団法人日本私立歯科大学協会は、我が国の歯学教育及び歯学研究の機関としての私立歯科大学並びに私立大学歯学部を設置する私立大学（以下「私立歯科大学」という。）の重要性に鑑み、私立歯科大学の教育、研究及び経営等に関する調査研究並びに会員相互の提携と協力によって、私立歯科大学の振興を図るとともに我が国の歯学及び歯学教育の充実、発展を期し、もって国民の健康な生活の確保に貢献することを目的に諸事業を実施してきているところである。

近年、18歳人口の減少、超高齢社会の到来、地域包括ケアシステムの構築、歯科疾病構造の変化、歯科医学の進歩などを背景として歯学教育を取り巻く環境の変化に的確な対応が求められている。とりわけ、我が国の歯科医師の75%を養成してきている私立歯科大学に対する社会の期待は大きく、その使命はますます重くなっている。

そこで、本年度は、定款第4条に定める各事業のうち、

下記の事業を実施する。

記

I 事業の内容

1. 新型コロナウイルス感染症に関する調査

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、「私立歯科大学・歯学部におけるワクチン3回目接種の進行状況調査」を実施し、加盟大学、文部科学省及び厚生労働省等と情報共有する。また、その他、必要な調査を適宜実施する。

2. 私立歯科大学における教育・研究に関する調査研究

我が国の歯学教育の在り方について基本的な方向性を調査研究するとともに、共用試験、歯科医師国家試験及び歯科医師臨床研修の制度等の改定について情報共有するとともに、その在り方について調査研究する。一方、文部科学省における モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会及び厚生労働省における歯科医

療提供体制等に関する検討会の検討状況等を踏まえ、それらが、私立歯科大学の状況を反映したものとなるよう適切に対応するため、必要な検討・協議等を行う。

3. 私立歯科大学における管理運営及び経営、特に財政基盤に関する調査研究

私立歯科大学の財政状況は、学生納付金収入の減、私大経常費補助金の相対的減、附属病院収入の減、歯科医師臨床研修の補助金の措置不足などにより、益々運営が厳しくなっている。

また、私立歯科大学附属病院においては、恒常に赤字経営となっていることに加え、当協会の調査によると、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和2年度は、大幅に収入が減少し、収支のアンバランスが生じて、次年度以降の経営にも大きな影響を及ぼしている。新型コロナウイルス感染症による収入減への対応及び補助金の使用制限が各大学病院での経営を圧迫している歯科医師臨床研修補助金について、抜本的な経済的支援体制の策定を国に求める必要がある。

このため引き続き、私立歯科大学の経営の在り方（「私立歯科大学（学部）の財政等の現状（令和2年度版）」を作成し分析することを含む。）等について検討・協議等を行う。

4. 私立歯科大学の職員の研修

加盟大学の職員の理解を深めるため、事務上の課題・問題点、対応方法等についての研修会を企画・実施する。なお、研修会の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、オンライン方式による開催も検討する。

5. 会報の刊行

加盟大学のニュースや協会の事業等を掲載した会報の刊行を2回（第84号（令和4年9月発行）及び第85号（令和5年3月発行））行い、加盟大学や文部科学省等の関係機関に配布する。

6. 受験生確保対策事業及び広報戦略事業

（1）受験生確保対策事業

多数の優秀な受験生を確保するため、高校生や受験生、進路指導担当教員等の関心を歯科医学・医療並びに私立歯科大学に向けさせるための方策を企画・実施するとともに、私立歯科大学受験志望者への入試関係情報の提供等を実施する。

（2）広報戦略事業

国民や関係方面の歯科医学教育等に関する理解を深めるとともに、私立歯科大学が果たしてきた社会的役割を積極的に発信するため、広報戦略事業（歯科プレ

セミナーの開催等）を企画・実施する。なお、歯科プレスセミナーについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、引き続き、オンライン方式による開催も検討する。

7. 私学関係諸団体との提携、協力及び援助

次の諸団体に、本協会傘下の会議として後援を行う。

- (1) 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
- (2) 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
- (3) 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
- (4) 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
- (5) 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会

II 各部会、委員会等における検討・協議等

1. 教育・研究部会

病院部会及び経営部会と連携を図りながら、特に、歯学教育の改善・充実、歯科医師需給問題、歯科医師国家試験問題等の教育・研究に関する事柄について検討・協議等を行う。

2. 病院部会

教育・研究部会及び経営部会と連携を図りながら、特に、歯科医師臨床研修問題、附属病院の医療安全、医療事故調査制度等の附属病院の運営に関する事柄について検討・協議等を行う。

3. 経営部会

教育・研究部会及び病院部会と連携を図りながら、特に、経営問題等に関する事柄について検討・協議等を行う。

4. 広報委員会

協会広報のあり方を検討しつつ、会報について企画・刊行を行う。

5. 受験生確保対策委員会

受験生確保対策事業について企画・実施する。

6. 研修委員会

事務職員研修会及び附属病院管理運営事務研修会について企画・実施する。

7. 歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

歯科医師臨床研修の在り方について検討・協議等を行う。

8. 診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

診療参加型臨床実習の在り方について検討・協議等を行う。

私立歯科大学の発展・充実を図るために必要な、共通かつ基本的な諸問題が生じ、基本方策の樹立あるいは各大学の協調が求められる場合、必要に応じて、これらを開催して意見を聞く。

9. 附属病院感染対策協議会

附属病院の感染対策の充実について検討・協議等を行う。その際、必要に応じ、国公立大学附属病院感染対策協議会等との情報交換を行う。

(2) 事務局長会議

管理運営に関する意見・情報の交換、各大学間の連絡・調整を図る。

また、理事会への提案案件を事務的に検討するとともに、各大学から提案される案件についても検討・協議する。

10. 私立大学歯学部学生生活協議会

私立歯科大学の学生生活上の諸課題等について情報交換・協議等を行う。

12. 各部会、委員会等の開催方法

上記の各部会、委員会等については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつ、オンライン方式による開催も検討する。

11. 連絡会議

(1) 理事長会議及び学長会議

令和4年度協会収支予算**令和4年度収支予算書**

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	1,000	1,000	0	
② 会費収入	47,800,000	47,800,000	0	
③ 事業収入	680,000	1,360,000	△ 680,000	
④ 負担金収入	5,100,000	5,100,000	0	
⑤ 雑収入	1,600,000	1,600,000	0	
事業活動収入計	55,181,000	55,861,000	△ 680,000	
2. 事業活動支出				
① 事業費支出	49,380,000	47,780,000	△ 1,600,000	
② 管理費支出	15,130,000	15,130,000	0	
事業活動支出計	64,510,000	62,910,000	1,600,000	
事業活動収支差額	△ 9,329,000	△ 7,049,000	△ 2,280,000	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
特定資産取崩収入	13,280,000	10,280,000	3,000,000	
投資活動収入計	13,280,000	10,280,000	3,000,000	
2. 投資活動支出				
特定資産取得支出	14,300,000	11,300,000	3,000,000	
投資活動支出計	14,300,000	11,300,000	3,000,000	
投資活動収支差額	△ 1,020,000	△ 1,020,000	0	
III 予備費支出				
当期取支差額	600,000	600,000	0	
前期繰越取支差額	△ 10,949,000	△ 8,669,000	△ 2,280,000	
次期繰越取支差額	21,790,000	19,660,000	2,130,000	
	10,841,000	10,991,000	△ 150,000	

協会役員・部会・委員会名簿

一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	三浦廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
副会長	大友克之	朝日大学学長
副会長	本田和也	日本大学歯学部長
副会長	藤井一維	日本歯科大学学長
専務理事	羽村章	日本歯科大学生命歯学部教授
常務理事	櫻井孝	神奈川歯科大学学長
常務理事	高橋裕	福岡歯科大学学長
常務理事	一戸達也	東京歯科大学学長
常務理事	横宏太郎	昭和大学歯学部長
理事	川添堯彬	大阪歯科大学理事長・学長
理事	大久保力廣	鶴見大学歯学部長
理事	古市保志	北海道医療大学歯学部長
理事	宮田淳	明海大学理事長
理事	小方頼昌	日本大学松戸歯学部長
理事	瀬川洋	奥羽大学歯学部長
理事	宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
理事	本田雅規	愛知学院大学歯学部長
監事	牧村正治	日本大学名誉教授
監事	菱田健治	朝日大学監事

(R4.8.31現在)

教育・研究部会

部会長：櫻井 孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
岸光男	岩手医科大学歯学部教務委員長
金秀樹	奥羽大学歯学部学生部長
坂英樹	明海大学歯学部教務部長
山本仁	東京歯科大学副学長
楳宏太郎	昭和大学歯学部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
小見山道	日本大学松戸歯学部学務担当
沼部幸博	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
楢木恵一	神奈川歯科大学副学長
早川徹	鶴見大学副学長・教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
田村康夫	朝日大学副学長・歯学部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R4.8.31現在)

病院部会

部会長：楳宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤和朗	岩手医科大学附属内丸メディカルセンター歯科医療センター長
大野敬	奥羽大学歯学部附属病院長
申基喆	明海大学副学長・歯学部長・病院長
山下秀一郎	東京歯科大学水道橋病院長
馬場一美	昭和大学歯科病院長
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
河相安彦	日本大学松戸歯学部付属病院長
内川喜盛	日本歯科大学附属病院長
山口晃	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
小川匠	鶴見大学歯学部附属病院長
矢島安朝	松本歯科大学病院長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
長尾徹	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学附属病院長・理事
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.8.31現在)

経営部会

部会長：大友克之
日本私立歯科大学協会副会長
朝日大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
車田文雄	奥羽大学事務局長
中山浩之	明海大学事務局長
片倉朗	東京歯科大学副学長・千葉歯科医療センター長
倉口秀美	昭和大学学事部長
筒井仁	日本大学歯学部事務局長
金森和人	日本大学松戸歯学部事務局長
谷村龍三	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聰	朝日大学事務局長
日比茂久	愛知学院大学歯学部次長
下村錢三郎	大阪歯科大学常務理事
井手孝行	福岡歯科大学事務局長

(R4.8.31現在)

広報委員会

委員長：高橋 裕
日本私立歯科大学協会常務理事
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
古川幸治	奥羽大学事務長
高山裕子	明海大学歯学部庶務課長
橋本貞充	東京歯科大学広報・公開講座部長
吉岡由貴	昭和大学総務部総務課係員
山崎和彥	日本大学歯学部庶務課長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
田口潤	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本宮由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
櫻井一義	神奈川歯科大学総務部総務課長
平野司	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
繩繩力	朝日大学入試広報部入試広報課長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R4.8.31現在)

受験生確保対策委員会

委員長：本田 和也
日本私立歯科大学協会副会長
日本大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
井上信之	昭和大学入学支援課長
横田正	日本大学歯学部教務課長
中澤謙司	日本大学松戸歯学部教務課長
中世古大介	日本歯科大学東京短期大学事務長
五十嵐謙介	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部係長
菅谷彰	神奈川歯科大学副学長・教学部学生担当部長
西村勇気	鶴見大学入試センター事務長
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
野崎中成	大阪歯科大学アドミッションセンター長
稻井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R4.8.31現在)

研修委員会

委員長：櫻井孝
日本私立歯科大学協会常務理事
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
谷代尚人	奥羽大学学事部長
伊藤敦	明海大学歯学部事務部長
橋本正次	東京歯科大学法人主事
大矢敦	昭和大学給与厚生課長
佐々木孝全	日本大学歯学部事務長
田中哲弘	日本大学松戸歯学部庶務課長
高橋孝幸	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
藤原剛	神奈川歯科大学総務部人事課長
藤澤文有	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
関谷常徳	愛知学院大学歯学部事務長
児玉孝	大阪歯科大学法人事務局長
古村南夫	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R4.8.31現在)

歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
川上智史	北海道医療大学病院副病院長
佐藤健一	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
山森徹雄	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学副学長・歯学部長・病院長
平田創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川篤司	昭和大学歯学部教授
武市収	日本大学歯学部卒後教育担当
平山聰司	日本大学松戸歯学部卒後教育担当
小川智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
大橋桂	神奈川歯科大学附属病院総医長・研修管理委員長
山口博康	鶴見大学歯学部学内教授
宇田川信之	松本歯科大学歯学部長
藤原周	朝日大学医科歯科医療センター長
小島規永	愛知学院大学歯学部講師
百田義弘	大阪歯科大学学生部長
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.8.31現在)

診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：一戸 達也
日本私立歯科大学協会常務理事
東京歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤敏行	北海道医療大学歯学部教授
三浦廣行	岩手医科大学副学長・歯学部長
鈴木史彦	奥羽大学歯学部教授
申基喆	明海大学副学長・歯学部長・病院長
村松敬	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川篤司	昭和大学歯学部教授
飯沼利光	日本大学歯学部付属歯科病院長
小宮正道	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
五十嵐勝	日本歯科大学生命歯学部教務部長
海老原隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
星憲幸	神奈川歯科大学附属病院副病院長・教育企画部教授
友成博	鶴見大学歯学部教授
亀山敦史	松本歯科大学教授
石神元	朝日大学歯学部臨床実習センター長
木本統	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本一世	大阪歯科大学教務部長・理事
坂上竜資	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R4.8.31現在)

附属病院感染対策協議会

議長：横 宏太郎
日本私立歯科大学協会常務理事
昭和大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
永易裕樹	北海道医療大学歯学部教授
八重柏 隆	岩手医科大学歯学部教授
板橋仁	奥羽大学歯学部准教授
星野倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
高野正行	東京歯科大学水道橋病院副病院長
代田達夫	昭和大学歯学部教授
米原啓之	日本大学歯学部学部次長
山口秀紀	日本大学松戸歯学部付属病院副病院長
石垣佳希	日本歯科大学生命歯学部院内感染予防対策委員長
水谷太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部院内感染防止対策委員長
沢井奈津子	神奈川歯科大学教育企画部准教授
長谷川雅子	鶴見大学歯学部講師
栗原祐史	松本歯科大学教授
安田順一	朝日大学歯学部准教授
宮地齊	愛知学院大学歯学部准教授
松本和浩	大阪歯科大学講師
橋本憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R4.8.31現在)

賛助会員企業

紹介コンナード



株式会社東京技研

創業以来、約半世紀にわたり、当社は歯科医療現場の様々なニーズにお応えしてまいりました。おかげさまで現在では、歯科用サクションメーカーとして国内トップの実績を誇り、多くの方々より「歯科用サクションなら東京技研」とご指名いただけるようになりました。さらにサクション以外にも、機械室のコンパクト化を図るコンプレッサをはじめ、手術室や院内の清潔で安全な空気環境をお届けする空气净化装置など、新分野の製品も次々と発売。“クリーン＆セーフティー”の東京技研としても認知していただけるようになりました。これからも当社は、つねに“その先の歯科医療”を見つめた新たな製品の開発・提案を行い、皆様のお役に立てる企業であることを心がけてまいります。

事業内容

- (1) 歯科用機械器具、同装置の製造並びに販売
- (2) 一般機械器具、精密機械器具の製造並びに販売
- (3) 前各項の研究、設計、技術援助並びに試作の請負
- (4) 以上の事業に関する出資
- (5) 前各項の附帯する一切の業務



代表取締役社長
渡辺 啓介

所在地
〒 158-0087
東京都世田谷区玉堤 1-25-13
TEL 03-3703-5581
FAX 03-3705-1760
<https://www.tokyogiken.com/>

株式会社モリタ東京製作所

「昨日より今日、今日より明日」

モリタ東京製作所は、1969年に創業し、2019年に創業50周年を迎えました。モリタグループの中で、歯科機器及び医科機器の製造販売を担っています。

今年5月には新工場が竣工となり、本社構内にすべての製造工程を集約することで一貫生産を実現いたしました。

新たな複合加工機や自動化システム等の最新設備を導入したことにより、加工速度の向上や夜間の無人稼働、IOT 対応が可能となり、スマート工場として生産性向上が図れたことは大きな利点です。これらは、従業員の労働環境改善による働き方改革、省エネルギー化による環境負荷軽減、今の時代から未来に向けて欠かすことの出来ない「SDGs」推進にも繋がっていきます。

今後も創業時より引き継がれてきた「四恩の精神」と共に、昨日より今日、今日より明日と常に最先端の技術、革新的な機器の開発・生産を追求し、人々の健康に貢献して参ります。

事業内容

- 歯科用医療機器の開発・製造販売
- 医科用医療機器の開発・製造販売
- その他動物用医療機器の開発・製造販売



代表取締役社長
中山 真一

所在地
〒 362-0806
埼玉県北足立郡伊奈町小室 7129 番地
TEL 048-723-2621
FAX 048-723-2622
<https://www.morita.com/jmtmc/ja/>

一般社団法人

日本私立歯科大学協会加盟名簿

■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部
岩手医科大学歯学部
奥羽大学歯学部
明海大学歯学部
東京歯科大学
昭和大学歯学部
日本大学歯学部
日本大学松戸歯学部
日本歯科大学生命歯学部
日本歯科大学新潟生命歯学部
神奈川歯科大学
鶴見大学歯学部
松本歯科大学
朝日大学歯学部
愛知学院大学歯学部
大阪歯科大学
福岡歯科大学

■賛助会員■

(株)シラネ	沖歯科要材(株)
(株)ヨシダ	(株)J.M.O r t h o
デンツプライシロナ(株)	(株)トクヤマデンタル
長田電機工業(株)	(株)ミクロン
(株)東京技研	(株)モリタ東京製作所
(株)ジ一シ一	(株)Y D M
吉田精工(株)	サンメディカル(株)
(株)八堯	(株)田中歯科器械店
ササキ(株)	医歯薬出版(株)
(株)モリタ	(株)ブイ・エス・シー
(株)ニッシン	(株)E P A R K
(株)松風	メデイア(株)
(株)モリタ製作所	
日本歯科薬品(株)	
(株)玉井歯科商店	
(株)ADI.G	
石福金属興業(株)	

◇編集後記◇

協会広報第84号をお届けします。

今号の巻頭言は、福岡学園の水田祥代理事長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願ひいたします。

広報委員長（協会常務理事）

高橋 裕

令和4年9月30日発行

日本私立歯科大学協会広報 第84号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：(株)日本出版サービス

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化(初代専務理事 宮田侑先生による)